

大原社会問題研究所五十年史

Ⅴ 戦後

研究所三十年史の刊行

一九五四(昭和二九)年四月、『大原社会問題研究所三十年史』が刊行された。研究所が大阪の地で創設されていらい三十年の激動期を、独自の民間インスティテュートとして歩いて来た道を概略叙述したものである。これで、法政大学と合併するまでの研究所の事業と伝統が公にされたわけである。

四月五日、法大新館の一室に開かれた高野岩三郎先生追憶会の席上、三十年史が各出席者に贈呈された。この夕べ、研究所創立いらいの古くからの関係者は、三十年の歴史を懐古しながら、その経営者であり指導者であった故高野所長の思い出を語りあった。

この年は、年鑑の外、調査報告『賃金の階層別変動とその原因』が発行された。

今年度は農林省水産庁よりの委託調査として「漁民運動調査」が新に実施されることになり、経済審議庁からは「失業者の実態調査」を委託された。前者の調査には千葉県銚子と九十九里浜の漁民を対象にえらび、後者は福島県常磐地区に発生した中小炭鉱失業者の実態を調査することにした。一〇月から一一月にかけて、久留間所長以下研究員のほとんど全員が現地に出張し、漁民や炭鉱夫に面接して聴取り調査に当たった。

また、この年の文部省補助金は三五万円に増額された。労農運動、婦人運動等に関する原資料類の点検、保存、整理および目録作成の作業が遅々としてではあるが進捗していった。

毎週開かれている研究会は、前年「恐慌論」をテーマに『剰余価値学説史』を研究したのにつづき、本年度は『経済学批判要綱』を輪読し、その一部を研究員が分担して邦訳した。

一九五四年度に所員の人事移動があった。すなわち四月、鈴木弘職員が退所し、しばらくして山口登代子さんが入所した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG全文検索](http://oisr.org)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)